

西村議員要望項目一覧

令和6年度6月補正分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>1 女性のからだと健康について</p> <p>(1) 更年期障がい医療提供体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更年期の診療について、問診にかかる時間や労力と診療報酬が見合わないこともあり、多忙な産婦人科等では、問診に時間をかけられない医療者側の課題がある。更年期症状による経済損失は1兆9千億円、50歳以上の女性は人口の約半分であることに鑑み、医療機関が丁寧に更年期診療を行える制度設計を国に求めること。 ・「更年期障がい相談支援センター」の利用促進のため、さらに広報や社会啓発活動を進めるとともに、利用実績・実態の把握を行い、男性に対しても医療情報リテラシーの向上と医療提供体制・フォローアップの充実を図ること。 	<p>国に対し、更年期障がいの具体的な特徴や治療方法等の実態把握、更年期世代の健康に関する研修や啓発促進、医療や相談提供体制の整備を含め、更年期障がいに対する具体的な対策を進めるよう引き続き要望していく。</p> <p>また、令和5年度に県内3か所に設置した「更年期障がい相談支援センター」による医療機関・事業所向けセミナーや、ガイナレ鳥取のホームゲーム等での普及・啓発活動がきっかけで治療につながるなど、対策の効果があがりつつある。今後も、同センターの普及・啓発を行うとともに、各センターの相互連携や医療・相談対応向上を図る研修・カンファレンスなどにより、更年期障がいの医療提供体制の質向上を図るとともに、男性を含め更年期症状に悩みを持つ方への支援を行っていく。</p>
<p>(2) AYA世代子宮頸がん予防・HPVワクチンキャッチアップ接種勧奨への協力について</p> <p>子宮頸がんは、がんの中でも疾病負荷が特に大きい。医療的ケア児・早産や低出生体重児・若年性更年期の増加を防ぐためにも、妊産前、AYA世代の予防は重要である。</p> <p>国のHPVワクチンキャッチアップ接種の1回目期限が本年9月末に迫っているため、医療機関から学校や県民に対する広報周知啓発活動への支援・協力を迅速に進めること。</p>	<p>HPVワクチンのキャッチアップ接種は、接種期限が令和6年度末に迫っていることから、令和6年2月に、実施主体である市町村や接種を担う医師会・医療機関に対し、接種対象者等への適切な周知・広報などを依頼したところである。今後もしきゅうcafé（県の委託事業を活用し鳥取大学が実施）によるHPVワクチン接種等に係る相談、普及啓発事業等など、市町村や医師会・医療機関と連携し、接種促進に取り組んでいく。</p> <p>また、全国知事会を通じ、キャッチアップ接種の実施期間の延長を国へ要望しており、今後も引き続き国へ働きかけていく。</p>
<p>2 家庭と仕事を両立する女性のDX・テレワーク人材育成と就業・フォローアップについて</p> <p>デジタル人材やリモートワーカーが求められる中、「とっとりデジタル人材育成プログラム」や「とりも」などのIT・DX人材育成事業について、特に、子育て中など限られた時間での仕事を探す人材のマッチング支援と企業側が求めるスキルに達しない人材のフォローアップ研修に力を入れてほしいという声がある。</p> <p>今年度2期目の事業開始に当たり、県は委託事業者やコンソーシアムとさらに連携し、就業マッチングと、スキルアップ研修等の支援を強化すること。</p>	<p>デジタルスキル習得と県内企業への就職までを一気通貫で支援する「とっとりデジタル人材育成プログラム」においては、企業とのマッチングを円滑にするため、今年度より、企業とのマッチング前に研修を行う仕組みへと運用を改善したところであり、県内求職者や移住希望者を対象にデジタルスキルの習得から県内企業への就職までを引き続き一体的に支援していく。</p> <p>時間や場所に捉われず高単価で働くことができるリモートワーカーを育成する「とっとりリモートワーカー育成・実践事業“とりも”」では、リモートワークに必要なスキルの習得とともに、プログラム修了後もリモート業務の発注のマッチングをするなどのフォローアップを行っている。</p> <p>令和6年度は、募集定員の拡充（50名→80名）や入門コースの創設とともに、プログラム修了者のキャリア支援やスキルアップを目的とした研修を実施し、子育て中など様々な境遇に置かれた方々の仕事の確保に向けたフォローアップを行っていく。さらに、県内企業にリモートワーカー活用の働きかけを行い、就業マッチングも充実させていく。</p>